

新潟産大付敗れる



京都国際―新潟産大付 先発し、好投した
宮田壘翔投手 14日、甲子園

京都国際に0―4

7、8回失点 16強ならず

新潟産大付
京都国際

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	1	3	×			4

第106回全国高校野球選手権は14日、兵庫県西宮市の甲子園球場で2回戦を行い、本県代表の新潟産大付は京都国際に0―4で敗れ、県勢として10年ぶりの16強進出はならなかった。

互いに無得点で迎えた七回に1点を先制されると、続く八回にも3点を失い力尽きた。

先発の宮田壘翔^{るいと}投手は三回の1死一、三塁のピンチを併殺で切り抜けるなど、五回途中に交代するまで無失点の好投を見せた。2死満塁で救援した田中拓朗投手が後続を断ち、この回得点を許さなかったが、七回に適時打で1失点。八回はミスからピンチを招き、スクイズや適時二塁打などで3点を失った。

打線は四球や長打で好機をつくる場面もあったが、あと一本が出なかった。九回も2死満塁としたが、三振に抑えられた。

新潟産大付は柏崎勢で夏の甲子園初出場。1回戦で埼玉県代表の花咲徳栄を2―1で破り、県勢7年ぶりの勝利を挙げていた。